

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	漁港漁場整備課長 角 敬	電話番号	0852-22-5316
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	漁場整備事業		
目的	(1) 対象	漁業者及び県民	
	(2) 意図	持続的な漁業生産を可能にするとともに、県民に良質な水産物を安定供給する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 水産資源の回復・増大を図るため、島根県の沿岸・沖合海域に資源の育成・保護に重点をおいた漁場整備を水産基盤整備事業の国庫補助事業を活用し行う。 国直轄の日本海西部地区及び隠岐海峡地区漁場整備事業への地元調整支援と負担金納付 市町村が実施する漁場整備にかかる事業経費の2/3を補助する。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 整備箇所数	目標値		6.0	6.0	6.0	6.0	箇所
		取組目標値						
	式・定義 各年度の実施箇所数	実績値	3.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	450,827	406,748
うち一般財源 (千円)	28,298	27,247

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤今年度新規
---------------------	--------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

<ul style="list-style-type: none"> 漁場整備は、島根県沿岸海域を大きく2地区（島根、隠岐）に分けて整備を進めている。 H27年度は島根地区で2箇所、隠岐地区で1箇所実施。 H27年度末時点で、島根地区計画29箇所の内、23箇所完了。隠岐地区では計画15箇所全て完了。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> H27年に行った標本船の漁礁利用調査によると、本事業で整備した漁礁の利用率は、全体生産量の概ね6割を占めている。このことから、効率的な操業を支えるとともに、水産物の安定供給につながっている。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 隠岐地区計画箇所の整備が完了したが、浅海域も含めた整備要望が漁業者から出ており、新たな漁場整備が必要となっている。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的に海水温の上昇等で藻場・磯焼けが進んでいる状況 島根県においても同様の状況 藻場、磯焼けにより、水産生物の生息環境が限られてくる。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 藻場、磯焼け対策も含めた漁場整備

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> 国は、水産物の生活史に沿った漁場整備を行い、海域全体の生産力の底上げを目指している。 県も、この方針に従いH27年度に島根県及び山口県外海を対象海域とする水産環境整備マスタープランを策定 これに基づき隠岐地区ではH28年度より新規整備計画に着手し、出雲・石見地区ではH29年度より新規整備計画に移行する予定 従来の漁礁整備に加え、増殖場、藻場造成も並行して整備する必要があり、年間の整備箇所数を従来目標の4箇所から6箇所に引き上げ、事業進捗を図る。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価 (任意記載)

--